越谷市内の寛文年間造立「阿弥陀如来像庚申塔」三基

秦野　秀明

はじめに

小花波　平六氏は、各地の庚申講の際に礼拝されている本尊について、現在は青面金剛、猿田彦大神、帝釈天の懸軸か木像であるが、かつては諸仏が庚申の本尊であったことは間違いなく、それは庚申塔、庚申板碑、庚申縁起、庚申の夜の勤行などにより明らかであると述べている。さらに、諸仏を主尊として刻む庚申塔は、東京都、神奈川県、埼玉県などに多くみられ、阿弥陀如来、薬師如来、釈迦如来、大日如来、観音菩薩、勢至菩薩、地蔵菩薩、不動明王、焔魔などであり、江戸時代の寛永以降、寛文・延宝の頃に多いと述べている。(1)。

一　越谷市内の諸仏を主尊として刻んだ寛文年間造立庚申塔

越谷市内において、諸仏を主尊として刻み、且つ寛文年間に造立された庚申塔は、

阿弥陀如来

①寛文三年(一六六三)舟型越谷市宮本町一丁目　十王堂集会所「奉待**庚申**講人数地蔵院」(2)

②寛文三年(一六六三)舟型越谷市西新井　西教院「為**庚申**待供養也」(3)

③寛文三年(一六六三)舟型越谷市越ヶ谷五丁目―四―五四　新道大師堂前の阿弥陀堂「為奉供養二世安楽也**庚申**講」(4)

④寛文五年(一六六五)舟型越谷市神明町二丁目　薬師堂(清光坊**跡**)「奉待**庚申**講人数寛文五巳乙天」(5)

地蔵菩薩

⑤寛文七年(一六六七)舟型越谷市大成町六丁目　浄音寺「奉供養**庚申**為現当二世結衆拾一人」(6)

⑥寛文九年(一六六九)舟型越谷市大泊　観音堂「念佛并**庚**之供養」(7)

⑦寛文十年(一六七〇)舟型越谷市七左町二丁目　真福寺**跡**「奉待**庚申**之供養二世成就所」(8)

⑧寛文十一年(一六七一)舟型越谷市北川崎　聖徳寺墓地「**庚**講供養」(9)

の**合計八基**である。

この内、①、②、④の寛文年間造立である「阿弥陀如来像庚申塔」三基は、造形がとてもよく似ており、造立された年が近く、また、造立された場所も近い。

むすびにかえて

ゆえに、①、②、④の寛文年間造立である「阿弥陀如来像庚申塔」三基は、**同一人物の石工による作品**であると推測する。

最後になるが、今回の試論は、加藤幸一氏の調査、研究に負うところが多かった。この場を借りて謝辞を述べたい。

註

(1)小花波　平六「庚申信仰礼拝対象の変遷」『庚申信仰』、雄山閣、一四一～一七一、一九八八。

(2)加藤幸一「平成十五年度　出羽地区石仏」(越谷市立図書館蔵)。

(3)加藤幸一「平成十四年度　荻島地区石仏」(越谷市立図書館蔵)。

(4)加藤幸一「平成十三年度　大沢町・越ヶ谷町石仏」(越谷市立図書館蔵)。

(5)前掲書註(2)。

(6)加藤幸一「平成十六年度　大相模地区　旧西方・東方・見田方村石仏」(越谷市立図書館蔵)。

(7)加藤幸一「平成五・六年度　桜井地区石仏」(越谷市立図書館蔵)。

(8)前掲書註(2)。

(9)中山正義「埼玉県寛文庚申塔年表」(自家製版)、二〇〇七
http://koktok.web.fc2.com/isikawa/isikawaCD/isikawa19/zakkki3.htm(二〇一五・五・二八　入手)

※次の頁以降では、①、②、④の寛文年間造立である「阿弥陀如来像庚申塔」三基の写真を掲載する。

①寛文三年(1663)　越谷市宮本町１丁目　十王堂集会所
(2008/5/15 撮影：秦野 秀明)

②寛文三年(1663)　越谷市西新井　西教院
(2008/5/15 撮影：秦野 秀明)

④寛文五年(1665)　越谷市神明町 2 丁目　薬師堂(清光坊**跡**)
(2014/2/22 撮影：秦野 秀明)